みどりのニュースレター

21世紀 地球を、地域を、生活を、
持続可能な豊かさに

7
2007
No.170

特集：ここが問題！
安倍晋三首相「美しい星 50」

特定非営利活動法人
環境市民
Citizens Environmental Foundation - since 1992 -
http://www.kankyoshimin.org

収益の一部は環境市民の活動資金として使わせていただきます。なお、会員には毎月無料配布しています。

みどりのニュースレター

No.170
2007年 7月号

今月の表紙……

5月24日、安倍晋三首相が今後の日本の温暖化防止の指針「美しい星50」を提唱しました。しかし、早くもNGOからはその内容、実効性に疑問が出ています。本当に美しい星とは……

特集を通して考えてみませんか。

コレため！ コレ、ためしてみました。

毎月エコロジカルなライフスタイル・グッズを
スタッフが体をはって実践レポートします！

File 24 思いをこめてゴシゴシと ～洗濯板に初挑戦！～

（文／ニュースレター編集部　久保 友美）

季節は夏。洗濯物がだんだんと増えてくる時期になってきました。普段だったら、洗濯物を洗濯機に入れて、ボタンを押したら、あとは機械にお任せ♪　とても楽チンなのですが、洗濯機で洗っても部分汚れが落ちていない……という経験のある方も多いのでは？　そんなとき、環境市民の中で洗濯板を使っているという人が。「面白そう。私もやってみたい！」ということで、今回は洗濯板にチャレンジしました。

ホームセンターで洗濯板を購入。木製のものが約700円。まずは、風呂桶や洗面台に水をはり、洗濯板の片方をつけておきます。そして、水で濡らした衣服に石けんをなじませ、衣服を軽く手でまとめます。洗浄力抜群の洗濯石けんや廃油石けんを使って洗濯板に衣服を当てながらゴシゴシと洗います。シャツ1着だったら、すすぎの時間もいれて5分ほど。あまり力を入れて洗うと、生地が傷んでしまいますので、ご注意を。

洗濯板は、1着でもすぐに洗濯できる上に、汚れを自分で見つけて、落とすことのできる点が洗濯機にはないよいところです。

サイズもコンパクトなものが多く、お風呂場や洗面所での使用も可能です。洗濯物を全て洗濯機任せにするのではなく、自分で汚れを見分けて、洗濯板も活用し、もっと洗濯を楽しんでみませんか？　きっとこの夏、洗濯板が手放せない一品となること間違いなしです。

CONTENTS

コレため！
思いをこめてゴシゴシと～洗濯板に初挑戦！～…02

15周年を迎えて
…03

特集：ここが問題！ 安倍 晋三首相「美しい星50」
…04-08

みんなでエコろう！ 行事案内
旬のぷちメモ・ミーティングカレンダー・講演のご案内
…09-10

とれたて！ 環境市民
もっと自転車が好きになるためのサイクリングツアー「新緑の巻」
行動する市民をめざす！
環境市民プログラムファシリテーター養成講座
…11

地球のなかま
第19回　その1　環境汚染と生物
タンカーの油流出とチェルノブイリ…12

青き星　碧い風
第十三回　スイスアルプスの花…13

みどりの瓦版
データで見る環境市民
法人会員紹介
環境クイズ
みどりのお便り
SKIPの！エコファイター劇場
今月のありがとう
新入会員インタビュー・新入会員・寄付
…14

1/ 環境市民
中島 和子さん…15

15周年を迎えて

環境市民 代表理事　枚本 育生

1992年7月18日に環境市民は誕生しました。ちょうど、アジェンダ21をまとめ、気候変動枠組み条約、生物の多様性に関する条約などが提起され、地球規模の環境問題を世界に認識させた、リオデジャネイロでの地球サミット直後のことでした。環境市民のようなNGOを作ろうという京都や近隣の環境NGOの人々や専門家と約2年の議論をへての誕生です。当日会員になったのは50人、ここから環境市民はスタートしました。初期の活動は、多くの人が参加できる行動を中心としてボランティアメンバーが知恵を寄せ合い作っていきました。連続セミナーの開催、大原野の森を借りての里山活動、エコツアーの実施と修学旅行の実態調査など、エコ（楽貧）料理教室、グリーンイングリッシュなどに多くの人々が参加してくれました。

里山に山小屋を皆で汗を流しながらつくりあげたことや、セミナーの会場に参加者があふれたこと、他のNGOとともに環境教育リーダー養成講座を開催したことなど、様々な経験が環境市民に蓄積されていきました。

初期の大きな出来事は、阪神淡路大震災。環境市民の会員関係でも被害にあった方がおられましたが、震災後ひと月間、神戸に現地事務所を設け、救援物品を取りにいけない高齢者などの方々に宅配活動をしました。

そして中期に入るときの大きな出来事はCOP3です。京都議定書が定められたこの会議に向けて、いくつかの環境NGOとともに気候フォーラム（現：気候ネットワーク）を結成し、全国的なキャンペーンと世界各地から参加するNGOの窓口としました。環境市民からは気候フォーラム事務局長と次長を派遣し、その活動を支えるひとつの力となりました。環境市民独自にも温暖化防止活動に取り組み、そこから現在のSKIPの活動が生まれました。また叡山電鉄と提携したエコモーション号も1997年に運行を開始しました。

中期以降の活動の、一つの特徴は、パートナーシップ。各地の自治体と提携して環境基本計画の策定サポート、環境活動リーダー養成講座などの実施など、日本の環境NGO活動のパートナーシップ活動の先駆者となるとともに、環境市民を自立的に運営する一つの基盤となっています。中期からは、自然住宅研究会、自転車チームの活動等も始まり、より幅の広い具体的な活動が始まりました。

環境市民の活動として、日本での誇りうるものとして、グリーンコンシューマー活動と環境首都コンテスト活動があります。前者は日本での先鞭をつけただけでなく、各地へ活動を広げる大きな役割を担いました。さらにグリーン購入ネットワークをつくるきっかけとなり、環境に熱心な企業との対話やパートナーシップ事業へと結びついてきています。

また後者は、参加自治体にとって役立つものになり、地域から日本社会を持続可能なものに変えていくという目的に近づきつつあります。また各地のNGOと10年間の長期プロジェクトを共同で展開するという意味でも画期的なものと評価されています。

また、発足当初からニュースレターを定期的に発行を続け、各種表彰を受けたホームページも環境市民の活動として誇りうるものだと思います。

環境市民は、今日、エコ地蔵盆、自然遊び講座など新たな参加型活動を展開しながら、さらに日本の環境活動の新たなステージを切り開くリーディングプロジェクトをスタートさせています。誰もが参加できる、そして社会を変える力となるNGOとして、より力強い行動を会員と賛同してくださる方とで形作って行きたいと思います。

NEWS LETTER FEATURED CEF

特集：ここが問題！ 安倍 晋三首相「美しい星 50」

（文 / 環境市民 事務局長　堀 孝弘）

2007 年 5 月 24 日、安倍晋三首相は、第 13 回国際交流会議「アジアの未来」（日本経済新聞社主催）の晩餐会で、「美しい星へのいざない　～3 つの提案、3 つの原則～」と題した演説（以下、美しい星 50）を行い、この中で「2050 年に世界の CO_2 排出量を現在の半分に」などの提案を行いました。日本の首相も環境問題でリーダーシップを発揮か、と言いたいところですが、温暖化防止の動きを実効あるものにするには、私たち一人ひとりが中身をよく見る必要があります。

今回の特集の内容

■安倍晋三首相「美しい星 50」の概要 ……4P
■「美しい星 50」　ここが問題 ……5P
■安倍首相に提案　「こまめ」ではなく「仕組みづくり」が必要 ……6 ～ 7P
■「脱地球温暖化の戦略 NGO、市民のイニシアティブ」—ほんとうの、美しい星を実現するには— ……8P

安倍 晋三首相「美しい星 50」の概要

「美しい星」は、三つの提案からなっています。

「提案1」で長期戦略として、「世界全体のCO_2（二酸化炭素）排出量を現状と比べて2050年までに半減する」ことを世界共通の目標とすることを提案し、そのために精力的に各国に働きかけることを表明しています。

気になるのは、「2050年までに半減」をどのように実現するかですが、その柱として「革新的技術の開発」をあげ、「革新的ゼロ・エミッション石炭火力発電」「革新的太陽光利用技術」などの例示と並んで「先進的な原子力発電」があげられています。

また長期ビジョンとして「低炭素社会」を提起しています。生活の豊かさとCO_2削減が両立し、自然との共生、公共交通による効率的な移動システム、コンパクトなまちづくりなどを実現するため、生活様式や社会システムの変革も打ち出していく旨を表明しています。

「提案2」は中期戦略で、ポスト京都議定書の考えとして「3つの原則」を提案しています。まず、京都議定書の次の枠組みは、京都議定書より大きく前進したものであるべきとの前提に立ち、そのうえで「原則1」として、アメリカや中国、インドなど「主要な排出国が全て参加しなければならない」ことをあげ、「原則2」で、「各国の事情に配慮した柔軟かつ多様性のある枠組みとすること」、そして「原則3」で、「省エネなどの技術を活かし、環境保全と経済発展を両立すること」をあげています。

「提案3」では、「京都議定書の目標達成に向けた国民運動の展開」を提案しています。京都議定書の第一約束期間（2008～2012年）の開始を来年に控え、日本が世界と約束した温暖化効果ガスの削減目標6％の実現に向け、政府の率先行動だけでなく「国民運動」を展開するというものです。

その「国民運動」とは、「1人1日1kg」のCO_2削減に努めるよう家庭や職場に呼びかけるというもので、CO_2削減のためのいくつかの行動が例示されていますが、これまで環境省から示されていたシャワーを１日１分減らすなど「こまめな暮らしの提案」を繰り返したものでした。

また、安倍首相は、これらの取り組みを「日本モデル」と名付け、世界に向けて発信するとしています。

※以下のURLで「美しい星50」についての資料を得ることができます。
http://www.env.go.jp/council/32tokubetsu21c/y320-09.html

「美しい星 50」ここが問題

この「美しい星50」のなかで、ひと際目を引くのが「2050年までに世界のCO_2排出量半減」です。それを実現するための「革新的技術」の中には、実用化されていない巨大技術もあります。「結局、最後は技術で解決すればよい」という考えが国民に広まらないか心配です。その中の「先進的な原子力発電」には、「中小型の原子炉を開発し、途上国や島嶼国の発電需要に応える」という例もあります。最近、国内原発の過去様々な事故隠蔽が明らかになりました。放射性廃棄物や耐用年数の過ぎた原子炉等の処理だけでなく、日常の運営でも大きな問題を抱える原発を途上国に広めることによって、世界はCO_2とは質の違った、とても大きなリスクと向き合わねばならなくなります。

ヨーロッパには国民的議論の末、脱原発に向けて進んでいる国もあります。技術の中には、太陽熱温水器や二重サッシのように革新的でなくても効果的な省エネ技術も多くあり、巨大技術開発や原発頼みではなく、今ある有効な技術を広く普及するための仕組みこそ重要です。自然エネルギーの普及にしても、2004年まで太陽光発電の導入（発電容量）で日本が世界のトップを走っていましたが、2005年ドイツに抜かれました。これも普及制度の差がもたらしたものです。

「提案2」の「原則1」、ポスト京都議定書では「主要な排出国が全て参加しなければならない」のはその通りで、ぜひ強く働きかけてもらいものです。「原則2」としてあげた、「各国の事情に配慮」「柔軟で多様性のある枠組み」もこれまでの国際会議等で確認されてきたことです。ただし、これが強調され過ぎると、新しい枠組みを実効性のないものにしかねないので注意が必要です。

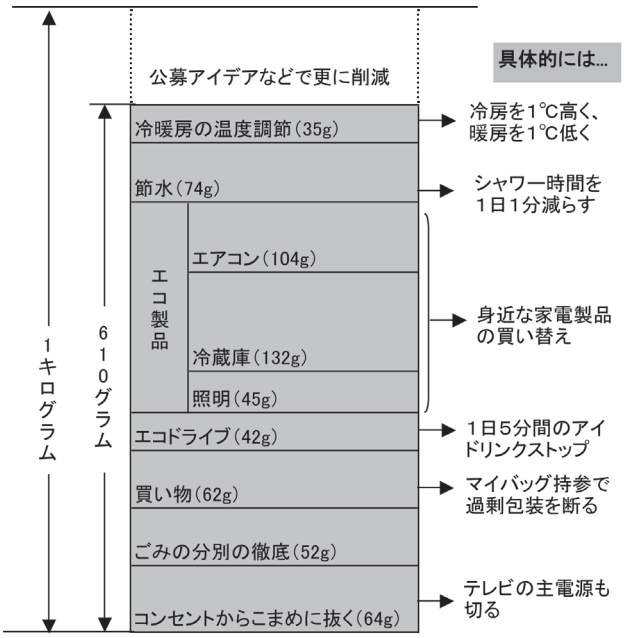
気になるのが「提案3」です。ポスト京都議定書のリーダーシップをとろうとしても、まず自ら、京都議定書で世界と約束した削減目標を達成しなければ、世界から相手にされません。その京都議定書の履行期限（第一約束期間）が来年から始まります。

ご存知のように、日本は、CO_2を主とする温室効果ガスを、2008～2012年の第一約束期間（5年間の平均）までに、基準年比6％削減することになっています※。ところが逆に、2005年、基準年比8.1%増加していて、京都議定書の達成はかなり厳しい状況になっています。

※ CO_2、CH_4、N_2O の 3 種の基準年は 1990 年。HFC、PFC、SF_6 の 3 種は 1995 年

京都議定書の達成に向けて、「1人1日1kg」のCO_2削減を「国民運動」として家庭や職場に呼びかけるとのことです。（図1）しかし、これまで提案されている「こまめ暮らし」を積算しても1日610gのCO_2削減にしかならないため、不足分を補う新たな提案を国民から求めるとしています。しかし「こまめ暮らし」の提案はこれまでもなされてきたことであり、あらためて呼びかけても、大きなCO_2削減効果は期待できません。

（図1）1人1日1キログラム削減運動



安倍首相提案「美しい星50」より作図

「提案1」で、低炭素社会のビジョンを示し、社会システムの変革が必要な旨、述べていますが、ヨーロッパには、すでにこれらを実現しつつある国もあります。それを考えると、将来ビジョンを「夢」として見せるだけでなく、その実現に向けた具体的な道筋の提示が必要な段階に入っていると言えます。ライフスタイルの変革はとても大切なことですが、一国の首相がすべきは、ビジョンに至る実現プロセスを具体的に示すことであって、こまめ暮らしの呼びかけではありません。

「美しい星50」全体をみると、長期目標は「革新的技術の開発」で実現し、直近の目標は「こまめ」で達成しようとしていますが、この両者にはとても大きな開きがあります。巨大技術開発の前に、実用化され有効であっても、一部にしか普及していない既存の環境技術を社会浸透させ、身近にする仕組みが重要であり、また、事業者や消費者の環境配慮行動を「当たり前」にするための様々な誘導策が必要です。もちろんこれらは、国が一方的に決めるのではなく、実現にあたって社会実験をはじめ地域で活動する様々な主体の協働活動が大きな役割を果たします。ところが、「美しい星50」から地域の果たす役割が見えてきません。

世界に向けて発する「日本モデル」と言うからには、海外の人々も「現実味」を感じるものでないといけません。「美しい星50」は、その「現実味」が欠けています。

安倍首相に提案
「こまめ」ではなく、「仕組みづくり」が必要

私たちの社会に必要な課題

安倍首相の「美しい星50」で例示された「こまめ暮らし」は、個人の行動として大切なことですが、個々の実践に期待するだけでは決して将来ビジョンへの到達も京都議定書の達成もできません。必要なのは、環境に配慮した生活や事業活動が当たり前になるための制度構築です。その制度構築に向けて何が必要か、「こまめ暮らし」を「社会の課題」に置き換えてみると見えてきます。

エコ製品への買い替えをすすめましょう

これを「社会の課題」に置き換えると…

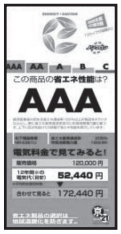
「多くの人がエコ製品を選ぶようになる仕組みをつくろう」

購入・買い替えの際、環境にも配慮して製品を選ぶことを「グリーン購入」と言います。家電製品や自動車など、製品によって消費電力や燃費に大きな差があります。製造時や廃棄時のエネルギー消費より、使用時のエネルギー消費の方が圧倒的に大きいことを考えると、消費電力や燃費効率のよいエコ製品の選択は、とても有効なCO_2削減策となります。しかし、概して省エネ性能が優れた製品は価格が高く、それが普及のネックになっています。そのため「呼びかけ」だけではエコ製品は普及しません。

そこで環境税など、エコ製品が購入しやすくなる仕組みが必要です。環境税については誤解もあるようですが、海外で施行されている環境税の多くは、製品・サービスの環境負荷の大きさに応じて課税されています。例えば、電化製品であれば、省エネ性能が優れた製品は税率が低く（または非課税に）、逆に省エネ性能がよくない製品の税率を高くするなど、エコ製品や環境技術が社会に広まり易くする手段として活用されています。このような仕組みを採りいれることで、メーカーの省エネ技術の開発努力も利益に結びつきやすくなりますし、海外製品に対する競争力も高くなります。

□地域の市民、事業者、行政の協働活動が、全国に波及、国の制度にも影響を与えた「省エネラベル」

2006年10月、経済産業省は家電製品の省エネ性能表示ラベルを定め施行しました（下右）。この原型は2002年度以降、東京や京都で、市民団体、行政、事業者の協働のもと考案し、店頭での効果測定などを経て、各地の市民団体や行政、事業者の協力のもと全国に普及した「省エネラベル」です。↗

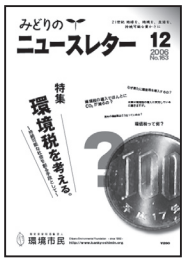


京都で生まれた省エネラベル

全国省エネラベル協議会で決めた統一ラベル

経済産業省が定めた全国統一ラベル

□環境市民では、「環境税」の効果や課題について、「みどりのニュースレター2006年12月号」で特集しています。



シャワーの時間を１日１分減らしましょう

これを「社会の課題」に置き換えると…

「自然エネルギーの活用や熱利用の効率化を進めましょう」

「シャワーの出しっ放しを１分減らせば、１日74グラムのCO_2排出量が減る」ということですが、そもそも出しっ放しをしていない人には関係のない話！

自然エネルギーの活用といっても、太陽光発電のような高価なものでなく、太陽熱温水器のような廉価な既存技術で、家庭のエネルギー消費を大きく下げることができます。また、燃料電池やガスによるコージェネレーション発電も、熱利用効率を大きく高めます。これらを一般家庭に普及することによって、シャワーの時間を減らさなくても、CO_2排出量を大幅に減らすことができます。

現状、これらの技術は、私たちの社会に「点」のようにしか普及していません。これを面的に広めることが重要です。そのため、先にあげた環境税（炭素税）の創設など、社会の仕組みを変えていくことが必要です。

□自然エネルギーを市民の力で普及する「グリーンファンド」

市民の力で地域から自然エネルギーを普及させていく活動があります。例えば、きょうとグリーンファンドが進めている「市民参加 おひさま発電所設置事業」や、北海道グリーンファンドなどの市民風車事業があります。
NPO 法人　きょうとグリーンファンド
http://www.h3.dion.ne.jp/~kyoto-gf/
NPO 法人 北海道グリーンファンド
http://www.h-greenfund.jp/

マイバッグを持ち歩き、過剰包装を断わりましょう

これを「社会の課題」に置き換えると…

「レジ袋有料化の法制化を進めよう」

現在、一部の地域で地元行政や市民団体と協定などを締結して、自主的にレジ袋の有料化を採りいれるスーパー等があらわれてきました。とても意義深い活動で、「レジ袋はタダではない」という認識を社会に広めることにつながるでしょう。ただし、自主的な活動では事業者やそれを支援する市民団体の負担も大きく、やがて限界もきます。マイバッグ持参でレジ袋を減らさないと温室効果ガス削減目標が達成できないのなら、「呼びかけ」ではなく法による社会のルールとするべきです。

□「レジ袋有料化」については、「みどりのニュースレター 2007 年 6 月号」で特集しています。京都でのイオンやイズミヤをはじめとした「レジ袋有料化（削減）協定」にも参加しています。

2007年1月10日京都市役所での調印式
後列中央に枚本育生環境市民代表

ごみの分別を徹底して、リサイクルをすすめましょう

これを「社会の課題」に置き換えると…

「使い捨て容器包装を抑制し、リユース容器に転換できる制度づくりを進めよう」

ごみの分別を徹底し、廃プラスチックをリサイクルして焼却量を減らすと 1 日 52g の CO_2 削減になるとのことです。ただし、ごみ処理の優先順位として、国は法律で「発生抑制」や「再使用（リユース＝何度も使う）」をリサイクルより高く位置づけています※。しかし、缶やペットボトル、その他プラスチックなど、使い捨て容器包装は増えるにまかされている状態で、分別回収とリサイクルによる自治体負担は年々大きくなっています。一方、温暖化対策を精力的に進めているドイツには、清涼飲料やビールのリユース容器使用率が 72% を下回らないよう求める規定があります。「増えるにまかせてリサイクル！」では、温暖化効果ガスの削減につながりません。※循環型社会形成促進基本法 2000 年制定

□「容器包装リサイクル法」の問題点については、「みどりのニュースレター 2006 年 9 月号、10 月号」で特集しています。

□環境市民では「びんビールでいこうキャンペーン」を実施しています。洗って何度も使うリユースびんは、ごみ減量や地球温暖化防止に効果のあるものですが、リユースびんの多くが姿を消しました。そのなかで数少ない存在になったビールびんを、なんとかもり立て、リユースが当たり前の社会にすることを目的に実施するものです。

また、今年 9 月以降、京都市内で連続セミナー「地球温暖化を防ぐ 5 つの行動　今を知り、未来をつくる講座」を開催します。9 月 2 日には、その第 1 回として「地球温暖化を防ぐグリーンコンシューマー　リサイクルよりよく効く、リユースの効能」を実施します（詳細は次月号で紹介します）。ぜひご参加ください。

環境市民では提案・提言だけやなく、地域での実践活動にも力を入れています。その成果は「みどりのニュースレター」などで社会発信しています。

「脱地球温暖化の戦略 NGO、市民のイニシアティブ」

―― ほんとうの、美しい星を実現するには ――

文／環境市民 代表理事　枚本 育生

安倍首相が、『美しい星 50』を発表し、「温室効果ガスの世界全体の排出量を 2050 年までに半減化する」という方針を出した。遅ればせながらも、日本政府もこのような考えに至ったことについて、評価したいのだが、その内容をみると疑問が一杯わいてくる。その個別の疑問は、4 ページからのものに譲って、ここでは、日本政府や日本社会が、何をなすべきなのかを端的に述べよう。

1. 将来の社会ビジョン

温室効果ガスを半減化した社会とは、どのような社会なのか、その具体像を示す必要がある。そのような社会で私たちはどのような、生活、仕事をしているのか、日本の自然はどのようになるのか、これを描く必要がある。『美しい星 50』ではこれが述べられていない。その記述内容から類推できるのは、世界中に原子力発電所が設けられ、燃料電池車が走り回る、一昔前の SF アニメの世界だ。

地球温暖化が提起している私たち人類社会の問題は、単なるエネルギーの使いすぎではない。その根底にある、物質欲にとらわれ果てしなき競争の中で、格差と争いをもたらす、現在の経済社会のあり方と価値観そのものである。この経済社会そのものを変革し、地球環境と調和し、多様性の中で他者と共存できる社会とは、どのようなものか描いていく必要がある。

2. 世界の前に日本の目標値

『美しい星 50』には、日本社会の目標は書かれていない。むしろ日本の技術で途上国を支援することが中心になっている。ドイツは 2050 年まで自国で 1990 年比 80% 減 、イギリスは同 60% 減、フランスは同 75% 減という長期目標を明確にしている。世界に 50% 減を言うのなら、先進国たる自国はそれ以上の目標を掲げてそれを可能とする政策戦略を打ち出していくのが責任ある姿勢である。

3. 個々の努力だけに頼らない社会的システム

日本の温暖化対策は、個人、企業、団体の自助努力にまかせられている。しかし、社会状況がその努力を困難にしたり、効果を限定的なものにしたりしている。例えば、誰もが自転車を快適に利用できる交通システム、飲料は全て再使用容器に入れられて販売されるシステムなど、個々の努力だけに頼らない制度が必要である。

4. 総合的なエネルギー戦略

日本は、他国に比べて非常に多くのエネルギー開発予算をもっているにもかかわらず、そのほとんどを原子力に傾けている。自然エネルギーの技術的、そして社会的普及のためにこそ、その予算は使われる必要がある。そしてエネルギー関連企業の既得権益保護政策を改め、風力、太陽光、太陽熱、小型水力、地熱等の自然エネルギー利用が大きく促進される社会制度の構築が求められる。

5. 総合的な交通戦略

都市部を除けば、日本の交通は完全な自動車依存になってしまっている。徒歩、自転車、公共交通機関を使って、日本のどこででも生活が無理なくできる交通体系を作り上げていくことは不可能ではない。またそのことが地域の商業活性、コミュニティーの再生にも大きな好影響をもたらす。

6. グリーンな市場を創造する

環境を大切にする企業、商品が優先的に購入される社会的な仕組みが必要である。例えばごみの量が多い商品や、エネルギー消費量の多い商品には税金等がかかり、反対に環境的に優良な商品には補助金がでるような仕組みが考えられる。ヨーロッパ各国で導入されている炭素税は、自然エネルギーの普及に大いに役立っているだけではなく、得られた税収は社会保険料率の低減などに使われ雇用促進にも大きな効果をあげている。

7. 参画とパートナーシップ

このような改革は、優れた為政者があらわれることによってできるのでなく、多くの人々の参画と合意によってなしえるものである。国、自治体で住民の主体的社会参画を促す制度化とその積極的運用が、社会を変えていく基盤として必要とされる。さらに参画とパートナーシップをすすめるためには、縦割り、保守的というお役所 DNA を根源的に改める政策が求められる。

みんなでエコろう！ 行事案内

問合せ・申込み
環境市民
http://www.kankyoshimin.org
【TEL】 075-211-3521
【FAX】 075-211-3531
【IP 電話】 050-3581-7492
【E-mail】life@kankyoshimin.org

「地域から日本を変える ～環境首都コンテストに見る先進事例～」

京エコロジーセンター　平成19年度　第1回環境活動交流会

地球温暖化を防止し、持続可能な社会を創っていくには、その地域の特性に合った方法を見つける必要があり、自治体と住民が果たす役割は重要です。

今回は、環境先進国ドイツの事例や日本の環境首都コンテストから見えてきた自治体の個性あふれる先進的な環境施策をたくさん紹介します。第６回コンテストで総合１位の北九州市や地域ぐるみでの環境保全に取り組む飯田市からもゲストをお呼びします。日本を変えるのは地域から！　ぜひ、あなたのまちにピッタリの取り組みやヒントを見つけてください！

と　き ： 2007年7月15日（日）午後1:00から4:30
ところ ： 京（みやこ）エコロジーセンター（京都市伏見区深草池ノ内町13 京都市青少年科学センター内）
定　員 ： 70人（先着順）
参加費 ： 無料
申込み ： 7月14日（土）までに、氏名・連絡先を記載のうえ、京エコロジーセンターまで。
TEL　 ： 075-641-0911
E-mail ： ecocen@miyako-eco.jp
※メールでお申込される場合は、「環境活動交流会申し込み」というタイトル（件名）でお送りください。
主　催 ： 京エコロジーセンター
共　催 ： きんき環境館
企画・協力：環境市民、環境首都コンテスト全国ネットワーク

問合せ・申込み
環境市民 滋賀事務所
【TEL】 077-522-5837
【E-mail】cefshiga@kankyoshimin.org

水生昆虫観察会

大津市北部を流れる大宮川で、水生昆虫の観察や水生昆虫の幼虫を採取し、指標として水質の状況を判断する予定です。

と　き ： 7月29日（日） 午前9:30から正午
ところ ： 日吉大社（京阪電車坂本駅に9:30集合）
参加費 ： 無料
持ち物 ： 帽子、タオルなど
服　装 ： ゴム草履、長靴など川に入れる服装
申込み ： 環境市民滋賀事務所
締　切 ： 7月22日（日）
共　催 ： 大津自然観察の会

問合せ・申込み
環境市民 東海事務所
http://www.kankyoshimin.org/tokai
【TEL/FAX】 052-521-0095
【IP 電話】 050-3604-6182
【E-mail】tokai@kankyoshimin.org

ちょっとお得な「ぷち情報」

毎月３日に翌月の行事情報などをブログに掲載しています。ウェブサイトと合わせてご覧ください。
詳　細：http://kankyoshimin.seesaa.net/

環境市民　nagoya cafe

運営委員が毎月ミーティングを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にどうぞ。今年から毎月 11 日（わんわん）の夜に行っています。

と　き ： 7月11日（水）午後7:00から9:00
ところ ： 環境市民　東海事務所
参加費 ： 無料
申込み ： 必要

なごや環境大学 環境市民プログラムファシリテーター養成講座

名古屋市と協働で共育講座を企画運営します。

参加費 ： 550円（資料保険代含む、第7回・8回共通）
定　員 ： 20人（第7回・8回共通）
申込み ： 必要（第7回・8回共通）
主　催 ： 名古屋市
企画・運営：環境市民　東海事務所
申込先 ： 環境市民　東海事務所
詳　細 ： http://www.n-kd.jp

第7回「なごやのまちを自転車で楽しむ方法！」

さあ！　自動車から自転車へ。走ることの楽しさを満喫します。

と　き：7月7日（土）午前10:00から正午
ところ：栄広場（名古屋市中区）
講　師：鶴岡 朗（東海事務所 所長）

第8回「京都人の暮らしを学ぶ方法！」

「だいすき京都 環境市民の遊びかた暮らしかた」の書籍を使って学びます。

と　き：7月14日（土）午前10:00から正午
ところ：市政資料館（名古屋市東区白壁）
講　師：堀 孝弘（環境市民 事務局長）

ＫＩＤＳアドベンチャーエコツアー北海道へＧＯ！ 少年よ書を捨て旅に出よう！

自ら考えて行動し、地図や時刻表片手にまだ見ぬ土地に向かいます。日常生活の中で環境に配慮した生活を学び実践する環境教育プログラムです。今年の夏はちょっとアドベンチャーしませんか？　地平線からわき上がる朝日と、地平線に沈む夕陽を眺め、夜は満点の星の下、ワクワクすることを企画しています。放牧さ

れている馬とふれあい、生き物探しをします（生物の多様性を考える）。太平洋の海原をカラダ全体で体感。北海道の子どもたちと交流を企画しています。旭山動物園を訪れたり、札幌の地下鉄や路面電車を体感します。シュラフ（寝袋）に入って夢をみたり、食事づくりや洗濯にチャレンジします。美味しいジンギスカンや、ラーメンも食べます。子どもたちの表情は毎日ブログに掲載されますのでご安心です。

と　き（日程）：7月20日（金）　午後8:00 出発（名古屋）
21日（土）　–移動–
22日（日）　午前10:45 到着（苫小牧）
22日（日）～24日（火）　宿泊地：（当別（苫小牧））
25日（水）　宿泊地：（札幌）
26日（木）　午後7:00 出発（苫小牧）
27日（金）　–移動–
28日（土）　午前9:20 到着（名古屋）

主な行き先：北海道石狩郡当別町・札幌・旭川・旭山動物園
宿　泊：当別町 元小学校校舎を使用しているＮＰＯの施設・札幌のユースホステル
交　通：往復船（2等）・北海道ＪＲ・バス・地下鉄・路面電車
対　象：小学生、または小学生時にこのプログラムに参加した中学生
参加費：小学生 49,800円、中学生 69,800円
8泊9日（船中4泊）交通費・宿泊費・食事代21食分・保険代・写真代含む。
定　員：20人（応募者多数の場合抽選となります）
主　催：環境市民　東海事務所
協　力：ＮＰＯ法人　当別エコロジカルコミュニティー
申込方法：メールにて件名【KIDS申込】で、本文にお名前・連絡先を明記してください。折り返しご連絡いたします。お気軽にお問い合わせください。
担当者：鶴岡 070-5031-0414　tokai@kankyoshimin.org

山川里海のネイチャーツアーin三河大島

蒲郡から船で無人島を訪ねます。以前はナメクジウオの生息地として有名でした。「ひょっこりひょうたん島」のようなカタチの島です。ビーチコーミングや生物調査を愉しみます。参加者の要望次第ではシーカヤックも検討しています。

と　き：7月16日（月・祝）午前10:00から午後5:00
ところ：三河大島（集合：蒲郡駅）
定　員：10人（先着順）
参加費：3,000円
申込み：必要

ぽっとらっくぱーてぃ

マイカップと一品を持ち寄り、楽しいひと時を過ごします。おひとりでもお友達と一緒でもＯＫです。お気軽にどうぞ。今年から毎月 22 日（にゃんにゃん）の昼下がりに行っています。

と　き：7月22日（日）午後1:00から3:00
ところ：環境市民　東海事務所
参加費：無料
申込み：必要

昼下がりの発送倶楽部

月末に会員の皆さんに送る「みどりのニュースレター」発送倶楽部です。

と　き：月末あたり（詳しい日程はお問合せください）
ところ：環境市民　東海事務所
参加費：無料
申込み：必要

ぷちの 旬のメモ

あなたの心に季節の窓を。旬の話題と暮らし方のヒントをお届けします。

● VOL・25 ●「花火」

夏になると無性に見たくなる花火。意外にも俳句では秋の季語だそうです。この夏も全国で 200 近い花火大会が開催される模様。国産材料の価格や希少性から輸入品に押されている花火ですが純国産にこだわる花火職人もいます。彼らの人生の集大成とも言える 花火を見られると思うと大会が待ち遠しい！　最近では燃えカスの少ない「エコ花火」もあるとか。観覧者、花火師、大会運営者みんなの協力で会場を汚さず花火を楽しみましょう！　花火大会を通して生まれる地域の一体感や地元への愛着、誰かと花火を慈しむ時間は何物にも変えがたいですね。

（ニュースレター編集部／田麦 誠）

ミーティングカレンダー

7月 '07

3日(火)　ニュースレター編集部　午後6:30から
5日(木)　ニュースレター編集部　午後6:30から
6日(金)　環境共育チームSKIP　午後7:00から
8日(日)　自然住宅研究会　午後2:00から5:00
フジノ工務店事務所見学&ミーティング
阪急桂駅西口　Mr.ドーナツ前　午後1:45集合
13日(金)　電子かわら版チーム　午後7:00から
31日(火)　ニュースレター発送日　午後1:00から

講演のご案内

全国に講演に出かけています。お近くに来た際にはご参加ください。　※詳しくは京都事務局へお問い合わせ下さい。

■ 6日(金)　ごみやエネルギーを減らすお買い物/京都市　■17日(火)　企業とNPOの協働/大阪市
■25日(水)　一人から始める環境行動/田原本町

※⇩一般参加はできませんが下記の講座にも講師を派遣しています。
□28日(土)　地球温暖化/京都市

NEWS!

～環境市民の今、そしてこれからの活動をお知らせします～

とれたて！環境市民

もっと自転車が好きになるためのサイクリングツアー「新緑の巻」

（文/自転車チーム　藤見 昌憲）

5月27日（日）爽やかな五月晴れの中、12人の参加を得て実施。今回は「京都自転車マップ郊外版」さざなみさわやかコースの一部、平安神宮前から山科疏水を通り琵琶湖畔を瀬田の唐橋から矢橋帰帆島までを往復する約47kmである。

午前9時、途中合流予定の1人を除く参加者11人が集合。参加者の紹介や走行時における諸注意などの後、9時25分出発。府道143号線御陵駅手前を左折、山科疏水沿いの道へ。疏水は遷都後の沈滞した京都に活力を呼ぶため、明治23（1890）年に造られたもので、水力発電で多くの工場や路面電車を動かした。初夏の新緑と爽やかな風が、私たちにも元気とエネルギーを供給してくれた。船だまりで小休止、小関越えは旧道を避け、バイパス道路で峠越え、「ちょっとキツかったなー」と参加者の声。峠の祠前で小休止。国道18号線を横断し、湖岸道路へ。湖岸沿いに造られたプロムナードから見る広やかで自然一杯の景色は、ヨーロッパの湖水地域を思わせるような美しさ。湖岸には何kmにもわたり釣客が並ぶ。瀬田の唐橋で大津からの参加者1人と合流し、琵琶湖東岸のサイクリングロードを北上、正午に矢橋帰帆島（やばせきはんとう）到着。木陰にて昼食。スタッフの藤本芳一さんから海外自転車旅行談や各国自転車事情（本ニュースレター2007年3月号特集参照）を、参加者の大國正明さんから「歩いて楽しいまちなか戦略」（京都市「歴史的都心地区」で、自動車に過度に依存しない「歩いて楽しいまち」実現を目指す施策）についてうかがう。各参加者からも盛んに意見が出て、交流と意見交換の良い機会となった。自然豊かな環境、自転車を通しての、ある種の連帯感などに促進されたからだと思う。午後2時前に矢橋帰帆島出発、復路は近江大橋を渡り、木曽義仲を葬る義仲寺や、古い家並みが残る旧東海道から小関越え峠を経て山科疏水から蹴上を通り、4時過ぎに平安神宮前に全員無事帰着。

山科疏水と琵琶湖岸の素晴らしさを満喫でき、皆で走る楽しさを知ることができた、と参加者の満足度も高い。ぜひ読者の方にも行ってほしいイチオシのコースだ。次回は11月にサイクリングツアー「紅葉の巻」の予定。

行動する市民をめざす！　環境市民プログラムファシリテーター養成講座

（文/環境市民 理事　東海事務所 所長　鶴岡 朗）

この講座の目的は持続可能な地域社会を支える人やネットワークづくりである。座学で終わらずに行動する市民、協働する市民として、「共に育つ（共育）」ことをめざしている。エコロジーな気持ち「エコゴコロ」を持つ人なら誰でも歓迎している。

「環境市民プログラムファシリテーター養成講座」と題して8回連続講座を企画運営している。20人弱の参加者の年齢層は20歳代から70歳代と幅広い。受講後環境活動を実践する人には「修了証」を発行する（東海事務所が認定）。活動の場が決まっていない人は環境市民に入会を勧める。開催はすべて土曜日の午前中で、講座会場は名古屋市内の歴史的価値のある建物を4か所選んだ。

カリキュラムは全てオリジナルだ。第1回目は「『日本の環境首都コンテスト』を楽しむ方法」と題し、ドイツで始まった環境首都コンテストの歴史を振り返るとともに、日本各地の自治体の環境施策について、ビデオを見ながら学んだ。第4回の「ドイツのまちづくりを楽しむ方法！」では、ドイツの先進事例を勉強したあと、名古屋が環境先進地となるにはどうしたらよいかの意見を出し合った。他の回もただ講義形式の勉強するだけでなく、議論したりワークショップを開いたりして、コミュニケーションを取ることことを重視した。

これまでは「目からうろこだ」「勉強になった」と笑顔で帰っていく人が多かったが、これから実践活動へつなげることができるかが課題だ。環境市民東海事務所のスタッフにとっても、現場で学ぶ貴重な体験は価値があった。秋からフィールドを中心とした環境教育プログラムを企画実施する人を養成する「環境市民プログラムコーディネータ養成講座」を開く予定だ。

地球のなかま

今、世界中で１時間に四つの種が全滅していっているといいます。私たちが環境に与えている影響は生き物たちにとって、とても大きいものなのです。

いよいよ来年から京都議定書の第１約束期間がはじまります。その前に６回のシリーズで、生き物と環境、温暖化と私たち人間について考えていきたいと思います。第１回は、環境の変化によって、移動を余儀なくされた例を挙げます。

第19回　京都議定書第一約束期間開始目前特別編

その１　環境汚染と生物―タンカーの油流出とチェルノブイリ

文／ニュースレター編集部　千葉 有紀子

●ペンギンの選択

ペンギンというのは不思議な鳥です。５００万年前に飛ぶことをやめ、海中で生活する道を選んだのです。どういう過程を経てその道を選んだのでしょうか。

南アフリカにサイモンズタウンという、人間とペンギンが共に暮らしている町があります。人間が横切り、道路には「ペンギン注意！（轢かないように）」の立て札が立っています。民家の庭で卵を産み、育てる。なんともほほえましい風景です。

でも、これは究極の選択だったのです。アフリカンペンギンという種類で、絶滅危惧種に指定されています。22年前、突然この町に移住してきたといいます。町の人達はとまどいながらも、受け入れました。暮らしていた静かな入り江に大量の油が漂着し、暮らすことができなくなってしまったのです。実際のところ、油による汚染で命を落とす生き物はとても多いのです。

●タンカーによる汚染

１９８９年、アラスカの海での出来事です。3月23日夜9時に出航したエクソン・バルディーズ号はそのわずか3時間後に氷塊に阻まれて座礁します。４万キロリットルにわたる原油の流出により、25万羽の海鳥、２８００頭のラッコ、３００頭のアザラシ、２５０羽のハクトウワシ、22頭のシャチ、そして何百万もの魚の卵が死に至ったのです。タンカーの油流出といえば、油にまみれた鳥を洗う光景が目に浮かびますが、助け出された鳥たちは、そのまま自然界に帰ることはできません。洗い流された油と一緒に、本来必要な自身の油までも失ってしまうからです。自然界に帰るのは長いリハビリ期間を経てから。それでも、帰るところがちゃんとあるならば、彼らは幸せなのですが。

●チェルノブイリの惨事

１９８６年4月26日、何かが起こったことははっきりしていました。知っている人は知っていたはず。ポーランドの小学校では次の日の朝、子どもたちに一斉にヨウ素が配られたそうです。それがどれほど重要な意味をもつのかが、わかったのはずっと後のこと。この日、ウクライナのチェルノブイリ原子力発電所で、大規模な爆発事故が発生しました。事故直後に大量に排出される放射性ヨウ素を甲状腺に吸収しないためには、その前にヨウ素を充分にため込んでおく必要がありました。ウクライナにおいてはその対策が充分ではなかったために、事故から5年後に甲状腺ガンが大量に発生しました。

今も残る放射能にウクライナでは頭をかかえています。周りの国との共同のもと、チェルノブイリ原発全体を覆う大きなドームのようなものが作られる予定です。そうなれば、新たな放射能の流出はないのかもしれませんが、すでに大地にまき散らされた放射能はどうすればいいのでしょうか。

●聖地は放射能汚染地

ウクライナには放射能の汚染が激しいため、人が住めなくなった立ち入り禁止区域があります。でも、住み続けたり、戻ってくる人がいます。先祖代々の豊かな恵みの地。代わりに与えられた土地では生活していけない例が多いと聞きます。彼らをサマショールと呼びます。自ら居座る人という意味だそうですが、そういう土地は豊かな所が多いのです。そこで収穫されたジャガイモは本当においしいと、行って食べた人から聞きました。汚染された大地が実は豊かな大地。すごく皮肉な気がします。

絶滅危惧種の蒙古野馬（もうこのうま）は、つい最近まで動物園にしかいなかったそうです。絶滅危惧種だから、保護し、育ててきていた。でも、財政的には厳しい。せっかく、繁殖させても、放す場所もない。絶滅危惧種だから殺せない。だから……。立ち入り禁止区域に何頭かを放った。それは、植物が増えすぎて山林火災などを引き起こす心配から、動物も住まわせればちょうどいいのではないか、という判断からでした。そして、放たれた蒙古野馬は順調に繁殖しています。でも、その大地は高濃度の放射能に汚染されています。その土地で暮らすことが、今後彼らにどんな影響を与えるのか、わかりません。

どんどん地球環境は悪化しています。人間がまきおこしたことで、人間自身が暮らしにくくなると同時に、多くの生き物たちを種の絶滅の危機にまでおいやっています。その姿をしっかり見つめて、私たちは考えないといけない時期にきているのです。

○主な参考文献……チェルノブイリの森
メアリー・マイシオ著　ＮＨＫ出版

次号は「消える極地」です。

連載

青き星 碧い風

第十三回 スイスアルプスの花

文・写真／環境市民代表理事 枚本 育生

その風景は、まさに心の中に描いていたスイスアルプスの世界であった。垂直に近いアイガー北壁をバックに、目の前に360度広がるのは、花が咲き乱れる草原。たおやかに曲線を描く草原に、木々が深い緑が点々とアクセントを添える。放牧された牛がところどころに群れをつくり、カウベルの音が響いている。遠くにある、農家が夏に作業するための小屋が、まるでおもちゃの家のように見える。特異な形をした灰色の岩山ヴェッターホルンの上には青空と、ぽっかりと浮かんだ白い雲。

アイガー北壁をのぞむお花畑の放牧地

スイスアルプスをトレッキングするならほとんどの人が訪れるグリンデルワルト村。その北側の標高800メートルから2000メートル余に広がる丘陵を歩いていると、アルプスの少女ハイジの歌を口ずさんでしまう日本人が多いことだろう。風景写真の中に入れたくないような興ざめな建物や施設はほとんどといってないので、写真はつい広角レンズを多用することになる。

もちろん、この草原は観光のために作られたものではない。放牧のための牧草地である。6月中ごろから7月にかけてその牧草地に花がいっせいに花開く。

冬、この牧草地は一面の雪に覆われスキーゲレンデと化す。スキーのために切り開いたものではないからか、日本のゲレンデのように夏にみても自然破壊の悲惨さ感じる、ということは全くない。地球が創造した自然に人間の営みが調和した空間だ。

2000メートルを超えた岩肌にはキキョウやリンドウの仲間が顔をのぞかせる。日本アルプスでもよくみかける花だが、図鑑をみると日本の花とは微妙に違うようだ。紫、青、黄、白、桃色、いろいろな花に囲まれてみるアルプスの雄大な風景は、日常の瑣末なことに悩まされていること自体が、ばからしいことだと教えてくれている。

スイスアルプスの観光地には、登山電車、リフト、ロープウエイなどが景観に溶け込むように数多く敷設されている。また郵便バスや村営バスもある。トレッキングコースはその駅を結ぶように多様に用意されている。そのため、誰もが体力に応じて、素晴らしい景色を堪能できる。ゆっくりと登っていくこともできるし、下り道を中心にコースを組むことだってできる。

トレッキングコースはきちんと整備されていて、歩きづらいということはない。コースのスタート地点や分岐点にはかならず標識が立っている。現在地名と標高、そして行き先とその所要時間が明確に記されている。グリンデルワルト周辺では黄色の標識が普通だが、健脚向きのコースは白地に赤のラインで示されている。

トレッキングをしていると、ところどころで山のレストランに出会う。レストランもシャーレー風の木造建築で、少しも風景を壊していない。レストランではスイス風の軽食やパスタ、スープなどが絶景の中で楽しめる。もちろんビールやコーヒーも楽しめる。日本人にとって驚くべきことは、その値段が麓の村と変わらないことだ。スイスではどのような場所にあるレストランでも、ビール、コーヒー、紅茶等の値段の上限が決められているという。交通機関、コース、標識ともあわせて、観光立国という言葉が具現化されていることを感じさせる。

コースの途中で大きな滝に出会った。崖から落ちてきた水が清冽な小川になりそのまわりにお花畑ができている。水に乗った涼しい風が汗をかいた身体に心地よい。思い切り深呼吸をすると、生きているシンプルな幸せが湧きおこってきた。

山のレストラン

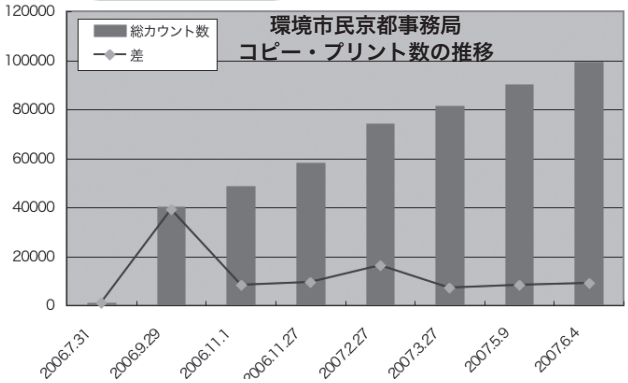
この連載の奇数回では、世界や日本の豊かな自然を描き、偶数回では日本社会や NGO への提案を載せていく予定です。

みどりの瓦版

編集／ニュースレター編集部 風岡 宗人

データで見る 環境市民

データファイル．7「コピー・プリント数」



環境市民の活動になくてはならないコピー複合機。昨年の7月に高性能の新機種を導入して以来、定期的にコピー、プリント数をカウントしてきました。その結果、約10か月間で10万枚弱（裏紙使用も含む）。1か月平均で1万枚となります。使用量についてコピー機をレンタルしている会社に問い合わせたところ、「業種によって多様なため一概には言えないが、総じて団体系は使用量が多い」ということでした。

さて、グラフを見ると2006年7月末から9月末までの使用量が多くなっていますが、行事等が立て込んで資料印刷が多くなったことが考えられます。資源と経費の節約のためには、使用目的などもきっちりと把握し、使う人それぞれが意識的に削減努力をしていかなければなりません。環境団体のエコオフィス活動のトップランナーをめざし、できる限り使用量の削減に努めたいと思います。

環境市民＊法人会員さん紹介

環境市民の法人会員は現在12団体。毎月1団体ずつご紹介します。

独自に作成した「地球環境ハンドブック」

第６回：新宗連近畿総支部

事務局員　大滝 晃史さん

新宗連近畿総支部は、新宗教教団の連合会として1951年に結成された（財）新日本宗教団体連合会＜新宗連＞の下部組織で、加盟教団相互の協力により、様々な社会問題に取り組んでいます。環境問題についても1990年頃から、全国的に取り組みはじめ、地域の特色を生かした実践活動を継続的に展開しています。近畿総支部は1995年頃から、環境市民の枚本育生さん、堀孝弘さんに何度も講演をしていただいたことをきっかけに法人会員になりました。

2003年10月から12月末、待機電力、エアコンの温度設定など身近に取り組める項目をそれぞれの家庭で実践し、CO_2を削減しようという「電力ダイエット運動」を近畿総支部で実施、約1500世帯が参加しました。この運動は私たちの毎日の生活と環境の関わり、心のありようや価値観、新しいライフスタイルを創りあげていくきっかけとするものになりました。「環境問題は人間問題」という枚本さんのお言葉を大切に、これからも歩んでいきます。

環境クイズ

五感と頭をフル活用！

Q. 旬（露地栽培、夏秋収穫）のきゅうり1kgを生産するのに必要なエネルギー量は、ハウス栽培（ハウス加温、冬春収穫）のきゅうりを同量生産する場合に比べて何分の一のエネルギーで済むでしょうか。

① 1/2　② 1/3　③ 1/4　④ 1/5

※正解は次号でお知らせします。
クイズ正答者には、抽選でお一方に粗品を進呈します。解答、住所、氏名、電話番号を明記して下記までご応募ください。

６月クイズの解答 ……

1（スイカ）◯　と２（あんパン）◠。

雨粒は海や川から蒸発したて雲粒（半径0.001～0.004cm）になり、合体して（0.01～0.02cm）、さらに成長して雨粒（0.1～0.4cm）となります。

雲粒は非常に小さいので落下せずに空中を漂っていますが、このときの形状は表面張力により球形で、合体を重ねて成長し雨粒となって 降下する際、空気の抵抗で下半分がつぶれたようなあんパン型になります。

SKIPの！エコファイター劇場 vol.7

イラスト：かわみん
環境共育チームSKIPの環境プログラム「エコファイターショー」をモチーフとしています。

【みどりのお便り】６月号の長谷さんの記事を読んで、できるだけ携帯の電源を切ろう！と思いました。メディアが広告収入のために本当のことを伝えないこと、国も隠しごとをするというのはほんと原発といっしょだな、と。私は原発の怖さを最近知りましたが、国民にここまで伝わらないのを不思議に思いました。そういえば環境市民は原発についての活動はされていないのでしょうか？（五藤あゆみさん / 本会会員）

編集部より＞携帯の危険性については、他の会員さんからもご意見・相談がありました。携帯の電波塔があまりにも無防備に増設されているそうです。今後も注目していきたいですね。原発については、環境NGOのグリーンピースが、地球温暖化防止のために「原子力を最大限活用すること」を説いているジェイムズ・ラブロック博士に対して公開質問状をおくったことについて賛同団体となり、明確に原発に反対しています。

新会員の方々・寄付　5月15日から6月14日

新会員

井上 理恵　安本 和正
木村 亜紀子　和田 憲一郎
土谷 剛大
堀内 重人

寄付

川上 博美
川島 奈美

ありがとうございました！

今月のありがとう！

目立たないところでも、お力を貸してくださった方々に、感謝をこめて―。

【ニュースレターの発送】秋本 直美／久保 友美／中山 理沙
前川 大／丸山 よね子／吉田 佳代
【総会のお手伝い】乾 孝史／江川 真理子／奥井 実
木村 幸子／窪井 千鶴子／駒 ゆき香／高梨 圭司／辻野 隆雄
濱 和宏／東 広之／藤井 千穂／細井 さおり／松澤 京子
丸山 陽平／横木 直子／吉田 佳代／西井 愛
（五十音順敬称略）

新入会員インタビュー

和田 憲一郎（わだ けんいちろう）さん（愛知県）
5月18日入会

仕事で電気自動車の開発に携わっています。環境市民で活動することはその参考になるのではと考え、入会しました。これから様々なイベントに参加し、貪欲に知識を吸収していきたいと考えています。

（ご意見・ご感想宛先）メール・FAX・郵送でお送りください
【E-mail】newsletter@kankyoshimin.org　**【FAX】**075-211-3531　**【HPから投稿】**http://kankyoshimin.u_me.jp/modules/ybb.s
【郵 送】〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル 呉波ビル3階 NPO法人環境市民 みどりのニュースレター編集部 宛

1／環境市民

――かんきょうしみんぶんのいち――

環境市民の会員を紹介します

第25回

中島 和子さん

今年15周年を迎えた環境市民。その中で一番最初に会員になってくださったのが、京都市生活学校連絡会の会長である中島和子さん。環境市民との関わりとご自身の活動についてうかがいました。

■環境市民が始まった頃

「もう古い話ですからね、あんまり覚えてないんですよ」と、お話が始まった。はきはきと話す様子からは、実際の年齢よりも若々しい印象を受ける。

環境市民をつくろうという話は、いろんな環境活動を一緒にしていた仲間から出てきたものだったという。まだまだ環境を意識した団体や動きが少ない頃、その先駆けとして、環境市民はつくられた。「階段を上がっていく、狭い部屋で集まったことをよく覚えています。会報一つ作るにしても、みんなで集まって。老若男女いろんな人が集まっていましたね。エネルギーに満ちあふれていました」。どんな集まりだったのか、想像するだけで楽しい。

■京都市生活学校連絡会の活動

中島さんは、その頃までに既に、京都市生活学校連絡会で活動していた。『明日の日本を創る』というスローガンで戦後に結成された団体で、京都にも7校あったという。中島さんはちょうど子育てが一段落した頃で、PTAのお仲間と一緒に活動を始められた。

「当時は、環境なんて意識が全然ない時代。たとえば、びんにしても、一緒に捨てるだけ。でも、ごみにしたらもったいないでしょ。だから、私たちが回収して、カレットにして、リサイクルしてくれるところを探したの」。その他には、廃油と粉せっけんとの交換や、あきかん条例※をつくるお手伝いや、割り箸の回収など、いろんな活動をしてきた。

「疑問は疑問でおいておかない、絶対に結論を出すんですよ」。

その連絡会の活動には三つの柱がある。

①調査、②対話、③事後処理　だという。たとえば、先ほどのびんにしても、どれくらいごみになるか、カレットとして引き取ってくれるところはあるか、回収はどうするか、調査しただけでは終われない。机上の空論をいくらやっても無駄、とにかく話し合いをしてお互いに申し合わせをして実行に移す。

とにかく、足でかせぐのよ。行って、見て、聞いてみないとわからないでしょ。

つい最近もジャスコの店舗でレジ袋を有料にした実態を調査した。「従来は十人に二人がレジ袋をただでくれる店に行き先を変えると言われていました。実際はどうか、それは目で見ないとわからない」。お昼時に、四つあるレジを二人で見てきっかり一時間。気になる人には話を聞く。「思ったより、混乱も不満もなかった。だんだん、レジ袋を使わない方向に向いていく気がする」。

■そして、これからの活動へ

今までの活動で反省もあった。「COP3（気候変動枠組み条約第3回締約国会議）の頃、ペットボトルで作った、エプロンとかリュックサックでファッションショーをしたの、取材も一杯きた。でも、今にして考えるとね、まずごみにしないことね。リサイクルよりリユース。でも、当時はわからなかった」。

今一番気になっているのは、「食育」だという。「朝ご飯を食べてこない子ども、孤食、このままではいけないです」。

保育園のそばに、老人ホーム、そして子どもとお年寄りとの触れ合い、駅に保育施設など、言い続けてこられたことが、すこしずつ、形になる世の中になってきた。「時代が私に追いついてきてくれたの」と笑う。まだまだ、中島さんの忙しい日々は続きそうだ。

※1982年に京都市で制定された「空き缶の散乱防止と再資源化を促進する条例（京都市空き缶条例）」。事業者、販売者の責任を明確化し、当時拡大しつつあった空き缶の散乱防止に取り組んだ。空き缶のデポジット制を盛り込もうとする市民運動もあったが実現には至らなかった。

（聞き手／撮影　ニュースレター編集部 千葉 有紀子）

編集部（五十音順）

有川 真理子　乾 孝史　小野寺 悠介
風岡 宗人　角出 貴彦　駒 ゆき香
久保 友美　島津 源紀　田中 俊徳
田麦 誠　千葉 有紀子　寺西 孝一郎
東 広之　藤岡 洋貴　松澤 京子
安江 晃子　吉田 佳代
下司 智子（デザイン・レイアウト）

編集後記

とれたて環境市民のサイクリングツアーの記事を担当。行事に参加していませんが、多くの人に自転車を好きになってもらいたいという想いは自転車チームのスタッフと同じ！という想いで編集しました。私も最近、琵琶湖畔を自転車で走りました。琵琶湖の青と木々や山々の緑をたっぷり堪能できて、癒されるコースです。お薦めです！（ニュースレター編集部　乾 孝史）

次号予告

みどりのニュースレター No.171 2007年8月号　現在編集中！

特集：パートナーシップで温暖化防止！
～自治体との協働で新しい市民社会を拓く～

温暖化防止待ったなし！　真の解決には、各主体がパートナーシップ（PS）で新しい市民社会を創りだしていくことが必要だ。そこで８～９月号では環境市民のPS経験と各地の実践情報をもとに、あるべきPSとは何か、そしてそのめざすものなどについて考えます。次号は自治体とのPSをメインにお伝えします。

残り わずか！

環境市民オリジナル エコバッグ

活動を応援＆お買い物もエコでおしゃれに♪

環境市民がオリジナルで作成したエコバッグが残りわずかとなってきました。会員の皆さん、環境市民ファンの皆さんでまだ購入されていない方はお早めに事務局までお申し込みください。なお、収益は環境市民の活動に使わせていただきます。

だから環境市民のエコバッグ！

● 再生ペットではなく綿 100% の自然素材を選びました。

● 国内での縫製とプリント

多くの布製品が、安価な労働力を理由に中国をはじめとするアジア諸国で作られています。環境市民では、国内の技術でつくることで輸送にかかるエネルギー削減や国内産業や技術を大切にしたいという想いから、国内縫製で行いました。縫製、印刷は、京都市内にある心身障害者作業所リンデン（京都市北区）に依頼しました。

● 持ち手がすこし長めの 60cm

買い物をして肩から下げる時、肩ぐりに余裕があります。男性にも持ちやすいデザイン。

● デザインは、アレックス・ボーイズさん（米国　環境デザイナー）

環境市民が提案し、京都市内で95年から8年間運行した環境メッセージ列車「エコモーション」（運行：叡山電鉄株式会社）の車体をデザインしたアレックス・ボーイズさんによるデザインです。よくみると、形を切り抜いた部分も捨てることなく、無駄なくデザインに取り込まれています。

● たたんで小さく。いつもバッグに。

仕事帰りや外出のついでに使っていただけるよう、折りたたんで小さくなるタイプにしました。

■サイズ　：横 32cm ×縦 35cm　マチ（底のみ）7.5cm
■価　格　：1,000 円（税込）郵送の場合は、別途送料をいただきます。
■申込み方法：メール・ファックス・お電話で、お名前・ご住所・電話番号・購入枚数を京都事務局までお知らせください。
■お届け　：商品のお届けまでに、1 ～ 2 週間を頂戴します。
■お支払い　：商品到着後、商品に同封の郵便振替用紙にて代金と送料をお振込みください。

環境市民に入会しよう！

環境市民は、多くのボランティアと会員の皆さんの参加によって支えられています。
「持続可能で豊かな社会づくり」のために、ぜひ会員になって環境市民の活動を応援してください！

会員特典

□月刊会報誌「みどりのニュースレター」をお届けいたします。
□行事などの参加費を割引させていただきます。
□会員専用ブログ「ボランティア広場」への参加ができます。
□環境に関する様々な情報を得たり、また質問や相談ができます。

会費の振込み方法

(1)　郵便振替振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の種類・送金内容事項をご記入の上、「年会費＋入会金」をご入金ください。（※シニア・学生・助成・特別助成会員は入会金不要）

(2)　ご入金を確認後、最新のニュースレターと会員バッジ、入会記念としてポストカードをお届けします。

会費

種別	年会費	入会金
個人会員	4,000円	1,000円
ペア会員	6,000円	2,000円
シニア・学生会員	3,000円	ー
ファミリー会員	8,000円	2,000円
助成会員	10,000円	ー
特別助成会員	50,000円	ー
終身会員	一括　80,000 円	
営利法人会員 *	1口 50,000 円	50,000円
非営利法人会員 *	1口 10,000 円	2,000円

*年会費は一口以上

～あなたのご支援が環境市民を支えます～

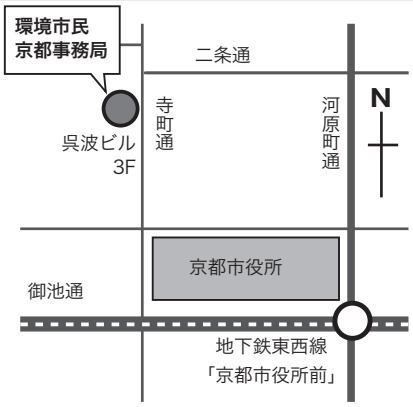
♥ **寄付をする…**　住所・氏名・電話番号・寄付金額をご明記の上、下記の振込先へお振り込みください。

会費・寄付のお振込み先　【郵便振替】口座番号：01020-7-76578　加入者名：環境市民

（発行）**特定非営利活動法人　環境市民**　（代表）枚本 育生　（発行人）堀 孝弘
【TEL】075-211-3521【IP 電話】050-3581-7492【FAX】075-211-3531
【E-mail】life@kankyoshimin.org【URL】http://www.kankyoshimin.org
〒 604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル呉波ビル 3 階　（月から金　午前 10:00 から午後 6:00）

環境市民 東海事務所
【TEL&FAX】052-521-0095【IP 電話】050-3604-6182
【E-mail】tokai@kankyoshimin.org【URL】http://www.kankyoshimin.org /tokai/
〒 451-0062　名古屋市西区花の木 1-12-12　AOI ビル 4 階

環境市民 滋賀事務所
【TEL】077-522-5837【E-mail】cefshiga@kankyoshimin.org
〒 520-0046　大津市長等 2 丁目 9-12　竺 文彦気付



本誌の無断複写・複製・転載を禁じます。
「環境市民」　登録商標 第4809505号

この印刷物は風力発電による自然エネルギーを使用して古紙配合率100%再生紙に、大豆油インキで印刷しました。
印刷：（有）紀書房

環境市民
Citizens Environmental Foundation
21 世紀
地球を、地域を、生活を、
持続可能な豊かさに